

シン乾癬—そうだ札幌、行こう。 第40回日本乾癬学会学術大会

(2025年9月6・7日)

京王プラザホテル札幌

安部 正敏

医療法人社団廣仁会 札幌皮膚科クリニック

2025年9月6・7日、第40回日本乾癬学会学術大会が札幌市の京王プラザホテルで開催された。テーマは“シン乾癬—そうだ札幌、行こう。”通常、大会テーマは高度なメッセージ性を有する場合が多いが、会長の趣味とパクリで構成されるのも珍しい。直前に日本付近でしぬけに台風が出現し開催が危ぶまれたが、幸い影響は少なく1,000名弱の参加者で賑わった。会長たる筆者はクリニック勤務医として初の乾癬学会大会長であり、いかにも頼りないので実行委員は道内で乾癬診療に活躍するクリニック勤務医で固めた。副会長は高橋英俊先生(札幌乾癬研究所)、名誉会長は根本 治先生(医療法人社団廣仁会 相談役)、プログラム委員長は山口泰之先生(札幌皮膚科クリニック)、実行委員長は湊谷貴史先生(岩田皮膚科医院)、企画委員長は福田朝子先生(白いあさがお皮膚科スキンケアクリニック)、財

務委員長は川嶋利瑞先生(網走皮膚科クリニック)、渉外委員長は小玉和郎先生(恵み野皮膚科クリニック)、患者会連携委員長は有田 賢先生(小林皮膚科クリニック)、事務局長は石橋昌也先生(浅沼皮膚科医院)と、錚々たるメンバーである(写真1)。

今回の目玉は患者さんに登壇いただいた文化講演である。「もし私が乾癬でなかったら…」をテーマに角田洋子様(群馬乾癬友の会/一般社団法人INSPIRE JAPAN WPD 乾癬啓発普及協会)、山下織江様(とちぎ乾癬友の会/一般社団法人INSPIRE JAPAN WPD 乾癬啓発普及協会/特定非営利活動法人日本医療政策機構)、菅野真宏様(乾癬の会(北海道))の3人に素晴らしいお話を賜り、涙する聴講者も少なくなかった。特別講演は4講演。飯塚 一先生(札幌乾癬研究所)による「乾癬における形の理解:自己組織化に基づく皮疹と病理組織における

形態形成」、西村正治先生(北海道大学名誉教授/豊水総合メディカルクリニック内科)による「生物学的製剤治療に伴う呼吸器疾患診療」、吉川邦彦先生(大阪大学名誉教授/川西市立総合医療センター)による「日本における乾癬研究の歴史——免疫・炎症異常説の登場まで——」、藤田靖幸先生(旭川医科大学)による「果てしなきシン乾癬の



写真1 実行委員一同

クリニック勤務医でつくり上げた初めての乾癬学会でした。

道」であり、乾癬の歴史、理論、診療、未来を網羅する内容となった。とくに乾癬関連ではリウマチ関連の講演は多いものの、分子標的薬診療で必須の呼吸器に関してはあまり聴講できる機会がなかったため大好評であった。また藤田先生の講演は筆者が思いつきでつけた大会テーマを見事に多用していただいた素晴らしい内容であり、筆者は飛び上がらんばかりに喜んだ。

このほか、教育講演、シンポジウム、144の一般演題。さらに、通常医師のみ参加可のセッションはときにみられるが、その真逆の“医師参加不可セッション”なんぞを企画し、多大なる支援をいただいた企業の皆様への感謝を表した。今回は座長を一般病院やクリニック勤務の先生方に積極的にお願いいただいたほか、次世代を担う若手乾癬専門家にもお願いし、未来への伝承を重視した。

非アカデミックな側面として本大会はテーマ通り鉄道色の濃いものとした。ポスターを彩った鉄道写真の好評を得て、橋本秀樹先生(つばさ皮膚科)のミニ鉄道写真展を開催。その素晴らしき作品に「絵はがきが欲しい」との声が相次いだ。札幌駅の駅名標を模した記念撮影コーナーには制帽を用意し、参加者が敬礼姿でパチリ(写真2)。学会場は“1番線”“2番線”と称し、会場案内は駅の案内板を模した(写真3)。ランチョンセミナーは“食堂車”、スイーツセミナーは“ビュッフェセミナー”、イブニングセミナーは“トワイライトセミナー”、モーニングセミナーは“サンライズセミナー”と列車にちなむ名称とし、食堂車では道内有名駅弁、ビュッフェでは道内有名店の“祝! 40周年”焼印入りバウムクーヘン、サンライズでは乾癬学会ロゴ入り乾癬学会40周年記念紅白記念和菓子を、トワイライトでは大人が楽しめるチョコレートをご用意した。また、患者会ブースへの集客を意図したスタンプラリーは小樽ワインをご褒美とした。

久々の北海道開催となった第40回日本乾癬学会



写真2 記念撮影コーナー

会長である筆者とどこからともなく現れた乾癬マン！

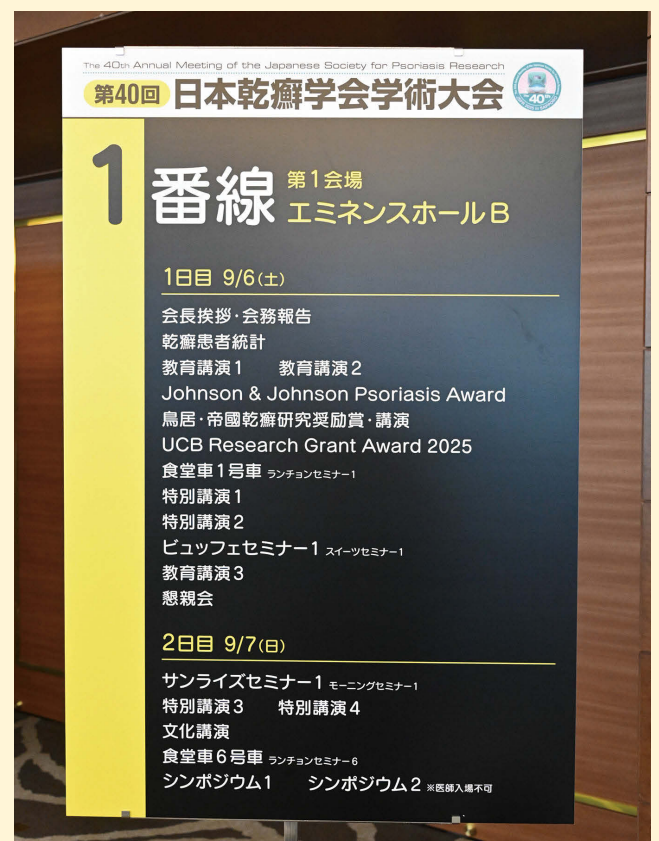


写真3 会場は1番線から5番線

案内板は駅でお馴染みのデザイン！

学術大会はこうして無事お開きを迎えた。次回は新幹線では到達できない沖縄で開催予定である。